

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<理念> 1・安心と尊厳のある生活を支援します。 2・その人のあるがままを受け入れて自立支援します。 3・地域住民として「普通に暮らす」ことを支援します。	○	地域へ出かけることのみでなく、地域の方々の積極的な訪問に繋がるような工夫が必要。例えば地域の方々と共同して取り組める行事の企画。隣接のデイサービスの休館日を地域のコミュニティとして開放する。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づくケア実践のために1回/月のスタッフ全員でカンファレンス、日々の問題点を当日勤務者間でミニカンファする等日々取り組んでいる。	○	スタッフの取り組み姿勢(理解と意欲の高揚)に繋がる方法を模索しながら前向きにとりくんでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域へ出かける。地域から訪問はいつでもOK。入居者の外泊、ご家族のお泊り等も、それぞれの希望に対応し、家族会でも取り組みの説明を繰り返している。	○	現状で充分とは言えない。地域性が大きく左右している面はあると思われるが。どのような方法で取り組めば、地域、家族への理解、協力が得られるのかが課題と考えている。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	事業所としては望むところであり、心がけているが、地域の理解が得られない。「事業所」に対して「特別な所」そこで暮らしている人は「気の毒な人」との認識が強い。	○	少しでも、地域の理解が得られるようアプローチしたり、アクションを起こさなければ、孤立した「事業所」に成りかねないと考えている。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事へは積極的にアプローチして参加しているが、自治会、老人会に関しては、地域の偏見があり参加できていない。	○	同上

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「畑の家」の取り組みは、地域の1人暮らしの高齢者にとって有意義な取り組みになったと考えている。	○	「かがやき」のお年寄りが地域に向けて具体的に何が出来るのかスタッフ間で検討できていないが、実践に向けて取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々提供しているケアが適切なのかどうか、これは第三者によって評価のものと考えています。提供しているケアを改善しより良い施設を目指すために評価時の指摘事項は改善努力をしている。	○	現状を今後も継続する。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催の中で意見を求め、前向きに取り組もうと努力している。	○	会議の場で終わってしまい、取り組みに対して継続性がない。どのように実践に向けるかが課題である。
9 ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町に限らず、関係する機関、他事業所との連携は保っている。	○	今後も継続して行く。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員が理解しているとは言い難い。現在の入居の中で制度利用が必要と思われる方はない。	○	今後は、職員研修のテーマとして取り上げて全職員に知識として伝えていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間のチームワークの中でお互いが注意を促し「虐待」はありえないと考えている。研修を受講した者が、報告報告として勉強会で全職員に伝える。	○	「虐待」に対する全職員の意識高揚を図りたい。特に「言葉の虐待」にむけて

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	不安、疑問に充分心がけ、利用者、家族の意向も受け止めながら契約につなげている。	○	
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	法人内の苦情窓口、アンケート箱の設置をしている。」苦情、利用者の意見等は、即、対処し改善するよう努めている。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の状況報告書、預かり金報告書、「かがやき」たより、家族会開催等で、報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	13の項目と同じ		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	支所長、管理者が中心となって、1/月のカンファ・日々も見にカンファで意見を聞く機会を設けている。予算は大変厳しいが可能な限り現場の意見に沿えるよう努めている。	○	「畑の家」に関しては来年度より共同募金配分金を充当して地域交流を更に活発にしていこう予定である。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整に関しては十分な配慮をしている。スタッフも協力的であり、状況は理解している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	①利用者や職員の人間関係が保てる人材は極力異動は考えないが、理念を実現できない人材は、異動や離職を実施している。 ②若い人材の確保ができていない。	○	現在21年3月末に60歳となる職員が3名いるため、20年4月より、若い職員を雇用し人材育成と人材の定着を図りたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①法人内外の検収については参加するよう努めている。 ②現場から内部研修計画を作成、実施している。 ③介護福祉士資格取得後の助成金あり	○	認知症に関する上級専門資格取得期間を専免にするなど配慮して受講させているが、1人でも多くの職員が目指せるよう勤務体制を配慮していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①県内の同業者でつくる組織との交流を行っている。(研修等) ②但馬管内の同業者との交流も行っている。但馬研修の企画及び参加)	○	認知症介護指導者研修の専門資格を取得されたので、内外での研修講師としての役割を期待する。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	①管理者が職員のストレスを把握し、傾聴するよう努めている。又、職員の力量に応じ、一部ケア制限したり、得意分野で活躍できるよう他の職員の理解、協力を求めることもある。 ②管理者が燃え尽き症候群にならないか気がかりである。	○	公務でも、私的にも管理者との交流を密にして、更なる信頼関係の構築に努めたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	①事業所目標、個人目標を自主的に設定し、自己評価、リーダー評価をしお互いの力量を確認しあっている。 ②人事考課の導入に関して取り組んでいく方向で検討中である。	○	人事考課を導入することによって質を高めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケースレスコードを活用することによって、その方をより理解し、求めていることの模索と理解を心がけている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には傾聴することを心がけ、相談者のニーズ把握に努めている。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であれば他機関との調整も含めて対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	求められれば、体験入所を経て入居へ繋ぐ。又、併設のディサービス利用の方であれば、利用時に「かがやき」との交流を持ちなじみの関係作りに向けて関る。等の取り組みを行っている。ご本人、家族のご希望により、ご家族のお泊りも受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	お年寄りが「かがやき」の生活者であることを認識し、職員がリードするケアを職員間で指摘しあい、「お年寄り中心のケア」を目指して、実践しているところである。	○	今後も継続して行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員は常に心がけ努力しているが、家族の理解は………… ご家族の協力が希薄である。(入所したら全面的にホームの責任・家族にとってどれくらい大切なお父様でありお母様なのかと考えることがあるくらい非協力的な家族もある。)	○	ご家族に理解していただき協力が得られるよう、更に働きかけることが必要。どのような方法で対処すればよいかは今後も大きな過大だと考える。
29 ○利用者や家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者、ご家族、スタッフは良い関係が築けている。(施設行事には案内し一緒に過ごす機会を設定しているが家族の参加が少ない。)		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域性が大きく影響する面もあり、理解、協力が得られない面があるものの、関係の継続の為に努力はしている。ドライブ、散歩、買い物、等近隣との関係作りには取り組んでいる。	○	今後もさらに努力していく。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の良い関係作りに支援している。お年寄り同志の会話、仲良しさんの居室で一緒に過ごして頂く等の取り組み。他のお年寄りに対する思いやりの光景等は和やかに感じられる。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とされている方に対しては、継続的な支援をしている。退居後も「かがやき」行事への案内を送る。訪問に対する受け入れへの取り組み。	○	自治会の開催を増やし、日常的にも個別の観察が出来る目を養い、個別ケアの実践を深めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自治会や日々の生活の中での観察し会話の中で希望、意向の把握に努めている。	○ 他の取り組みも模索しながら、今後も継続する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ケースレスコードを活用し生活歴、習慣、好み等を把握し、更に入居後も家族面会時の情報、近隣者からの情報等も追加記入しスタッフ全員で周知徹底するよう取り組んでいる。	○ 同上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態、状況を観察、把握し日々の記録表にスタッフの気付きを記入することを徹底して、お年寄りの状況、状態をスタッフ間で共有している。 更に日々のミニカンファで議論、討議してる。	○ 同上
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向は勿論のこと、入居者担当職員をグループ分けして、そのチームメンバーで検討し計画書の作成に取り組んでいる。	○ BS法等を活用しスタッフの積極的な意見が引き出せるよう工夫し、多くの情報を得た上で計画書を作成するよう取り組んでいく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を期間として見直しをしているが、その方の状態、状況に変化が生じれば、その都度見直し、検討し作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録・ケース記録・ミニカンファ等を通じて情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2回/年の他事業所との交流、併設サービスとの日常的な交流。「畑の家」活用による地域交流への取り組みを積極的に行っている。	○	生活の拡大のためにも、他事行所との交流を増やして行きたい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	教育現場との交流(お互いの訪問・運動会、学習発表会、芋ほり大会等) ボランティア、民生委員、行政等への協力依頼しながら日々の生活を支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネ、地域包括、他事業所との話し合いは日常的に行っているが、介護保険制度上他のサービスの利用は困難と考えている。 隣接サービスの利用に限られる。	○	他のサービス利用に関する情報を模索し、検討しながら前向きに取り組みたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	日常的に情報、意見交換をしながら協働できている。	○	今後も益々、情報交換を図りお年寄りの生活の向上に繋がるようなマネージメントに努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>2回/月の往診、状態変化時の連絡、ひつようなにに応じての柔軟往診又、対応をしていただき、嘱託医とホームは良好な関係の構築ができ適切な医療が受けられている。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>嘱託医へ相談し、嘱託医の紹介をもって専門医を受診している現状で、専門医との関係も良い関係が保てており、必要に応じて適切に専門医を受診することができている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>時施設の看護師と嘱託医との連携で日常的な健康管理と医療の活用はできている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には医療機関との情報交換は勿論のこと、病院を見舞う等にも心がけ、早期退院へ向けての援助を心がけている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末に向けての家族の意向を確認し、家族、スタッフ、嘱託医との更なる連携の中で、方針を共有し取り組んでいる。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>嘱託医のアドバイスを得ながら、家族の意向に沿えるよう検討するとともに、家族の可能な限りの協力を得て職員の連携の中で対応している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活の場が変わることによる、本人のダメージの軽減に繋げるよう事前に情報提供を行い、御本人の状況を認識していただけるよう説明するとともに、事前面接等で十分な説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に心がけ日々のミニカンファ等でスタッフの対応を振り返り反省すべき点の改善につなげるよう努めている。	○	更なるスタッフ間のチームワークの構築に勤め徹底することを目標とする。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフがリードしている部分が見逃せないのが現状で、お年寄りの自己決定を促進させるには、スタッフの意識改革が必要	○	お年寄りの日々の状態、状況を把握すること。「必要な部分(できないこと)に支援する」というケア基本をスタッフが認識し、動作緩慢なお年寄りの行動を見守ることが出来る職員教育の徹底を図る。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上	○	上記の取り組みに併せて、お年寄り個々の価値観を理解することに努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時は少しおしゃれな服、初詣は和服とそれぞれに合わせた服装を心がけ、理美容に関しては、家族と一緒に行きつけの理髪、美容院へお願いしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事、季節に配慮した献立を心がけ、「かがやき」の畑で収穫した作物も調理している。又、調理はお年寄りと一緒に、片付けはお年寄りが説教的にお手伝いしてくださっている。		
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物時にご本人の目で見て好みの物を購入する。みかん、お茶、おやつ等自由に食べられるようしている。嗜好に関しては、当然対処し、その方のその日の状況に合った食事形態を心がけながら対応している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄誘導を行い、行動の見守りと排泄チェック表の活用により、随時適切な排泄誘導を心がけ、失禁の解消に努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日浴を心がけながら、夜間浴を中心に、ご本人のご希望も取り入れながら、随時入浴で対応している。併設サービス施設の浴室を活用して大浴場での入浴も検討中。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人のその日の状況で、居室でのお昼寝、フロアのホーム炬燵でお昼寝、それぞれで御本人のペースと希望によって生活リズムの構築を心がけている。それに伴い冷暖房の調整。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の、思い、思いの行動で暮らしていただけるよう見守りながらの支援を心がけ、その方の生活歴の把握は欠かせないものと認識し、今までの生活に添えるよう努めている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時にご自分の買い物をご自分で支払いしていただく取り組みを行っているが、支払いはできても日常的な金銭管理の出来る方はいない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設はしていない為、いつでも自由に外出できる環境でもあり、お年よりも自由にされている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	お年寄りの希望を聞き「〇〇へ行きたい」との声があれば、いつでも外出するよう心がけている。又、ご家族と一緒に出かける機会も検討、ご家族の協力も得ながら取り組んでいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があればご本人に取り次ぎ話していただき、ご本人から電話を利用したいとの希望があれば自由にご利用していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも、何方の訪問訪問でも受け入れること、又、隣接のサービスを知り合いが利用される日はサービスと一緒に過ごしていただく等、御本人のご希望に添えるよう対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」はありえないとの考え方を基本にしている中で、そのような介護の光景は見られない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は日常的にホームの施錠はしていない。	
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の状態把握に努め、適切に対応している。又、ミニカンファ等で職員間での検討も重ねている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	心がけて対応している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態把握に努め、勉強会、ヒヤリハット報告、ミニカンファを行うことで事故防止、再発防止に取り組んでいる。	○ 様々な取り組みをすることで、未然に事故防止に努める。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個々の状態変化時に、様々な状態を想定し職員に伝え、対応できるよう徹底している。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	香美町社協防災危機管理ハンドブックを各職員へ配布し意識高揚を図る、又、3回/年消防署を交えての防災訓練の実施を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時、面会の少ない方に対しては、随時電話連絡、1回/月の状況報告を文書で送付する等を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的に状態の観察、変化に注意し、異常の早期発見と早期対応は常に心がけ、職員間で「気をつけること」を注意しあい、お互いに促しあっている。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心がけるようにはしているが充分とは言えない。	○	個々のお年寄りの、病気、治療の状況、内服薬等は、薬局からの説明書を読む。又、病歴についても、ケースコード等を確認することによって各職員が把握するよう更に心がける。
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の確保、適度の運動(体操、屋外への散歩、ディサービスとの交流)を積極的に行い、行動の変化にも心配りをしながら、排泄チェック表の活用もしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施、夜は義歯を外し洗浄剤で消毒している。	○	さらに、口腔内の状態、変化にも気を配りながら、口腔ケアを行い、異常の早期発見に努める。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の変化に気づけば、チェック表を活用し、一日の摂取量の確認とともに、食事形態、水分摂取の方法等を検討しながら対応している。又、個々の嗜好に応じたメニューも工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの確認と予防のために早期対応を心がけ実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理に対しては、職員間で認識できている。業者仕入れの食材もあるが、鮮度の良い食材を遣うために、日々の買い物に出かけている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	環境美化のため、玄関周りに鉢植えの花を置く。庭の草取り、掃除等心がけ美化に努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常的に「清潔」に心がけ、食事時には音楽を流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのホーム炬燵で過ごされる方や自室に気の合った方を招き自由に過ごされたり、隣接のディサービスで過ごされる等自由に過ごされている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力の得られない方もあるが、職員の配慮の中で落ち着いた環境となるよう工夫している。</p>	○	<p>協力の得られない家族に対しても、繰り返し説明して理解してもらえよう働きかける。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空調関係の管理。換気の徹底、加湿器の使用等、お年寄りの状況に応じて対応している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ハード面は「認知症対応型」施設として問題ない。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>「かがやき」を我が家として、自由に暮らしていただくことが、基本と考えているが、職員がかかりすぎる面もあり、自立の妨げと見える部分もある。過剰介護にならないよう見守ることを心がけているところである。</p>	○	<p>個々のお年寄りを理解し、介助、援助の必要な部分と過剰介護となっている部分を見極め、適切なケアの提供が出来るようスタッフの資質向上を図っていく。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>農園での野菜作り、草取り、ウッドデッキでレクリエーション等敷地内を十分に活用しながら日々楽しんでいる。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)